

## プロローグ

なぜ、「風水空間デザイン」で自然と調和する心地よい家が建てられるのか？

### 1.自然と調和する心地よい家を建てられる3つの理由

#### 理由1

光、風、水の流れを第一優先に設計するから「自然と調和する家」ができる

「沖縄みたいに自然が豊かではない場所でも、自然と調和する家ができるのでしょうか」はい、大丈夫です。たとえ都会であっても、光、風、水といった自然の氣の流れを整えれば、自然と調和する心地よさを感じ取ることができます。「風水空間デザイン」の思想的基盤は、約400年前に風水の本場中国から琉球へ伝わった「琉球風水」です。王府が国策に取り入れた風水思想。ここには、「自然と人が調和しながら共存する」という考え方の軸があります。天と地の間に存在する私たち人間も、大自然の法則によって生かされていると考えます。自然界の原理原則に従うことで、「自然と調和する」空間ができあがります。

#### 理由2

パワースポット理論を住む人の心に寄り添って「カスタマイズ」するから心地いい

「パワースポット」の定義も様々ですが、風水学にはパワースポットを形成する体系的な理論があります。しかし、パワースポットと呼ばれる場所は、神社やお城などスケールが大きいですよね。「個人宅レベルでパワースポットなんて作れるの」と思われるかもしれませんが、大丈夫です。パワースポットは、主に2つの法則から生まれます。「四神相応」と「陰陽論」です。四神相応の考え方で氣の流れをデザインすると、そこに住まう家族の暮らし方に合わせ、最適化された間取りができます。陰陽論は「自然」「建築」「人」の三者の調和をとるのに有効な考え方です。住む人を主役に、得たい感情に合わせてオーダーメイドで空間をデザインするので、「心地よい空間」ができあがります。

#### 理由3

建築・インテリア設計の考え方と相性の良い風水術だけを抽出！建築と風水がぶつからない

「風水にこだわると、間取りやインテリアがへんてこりんになりそう…」こう思われている方はとても多いです。でも、ご心配なく。風水空間デザインでは、数ある風水鑑定法の中から、建築・インテリア設計にマイナスの影響を与える鑑定法を除外しました。もう少し正確にいうと、風水鑑定結果を建築・インテリア設計にプラスに働きかける「使い方」にこだわっています。現代の建築・インテリアの技術を、今よりも進化させることができる方法だけを抽出して集めました。「建築士に『風水を入れて欲しい』ってリクエストしても大丈夫かな」と不安に思っている施主様もご安心下さい。本書でお伝えする方法であれば、建築的な考え方とぶつかることなく、設計を進め、家を建てることができます。

## 2.「西洋の技術」に「東洋の哲学」を融合する時代へ

医学の世界では顕著かもしれませんが。現代の医学は西洋医学中心です。しかし、表面的に出た症状をやわらげる、西洋医学的な対処療法では治らない病気があります。表面的に出ている症状だけでなく、病気の原因を突き止めて根本治療をするのが東洋医学。西洋医学に加え東洋医学も使い、西洋の東洋の良いところ活かしながら診療を行う医師も増えています。

現代の建築・インテリアの「技術」の多くは、西洋的な「考え方」から影響を大きく受けています。西洋思想の自然観は「人が自然を支配する」という考え方が根底にあり、一方、東洋思想の自然観は「自然と人が調和しながら共存する」という考え方が根底にあります。ものごとの全てには「技術」と「考え方」があります。木に例えると「考え方」とは「根」「幹」で、「技術」とは「枝」「葉」です。そして、考え方を根っこにした枝葉の技術の結果、「花」が咲き「実」を結びます。「自然を支配する」という考え方(根・幹)から建築を生み出すのと、「自然と調和する」という考え方(根・幹)から建築を生み出すのとでは、全く違った建築プラン(枝・葉)が出来上がることは想像がつくと思います。つまり、現代の地球の風景を作り出している建築(花・実)は、どのような考え方(根・幹)から生み出されたのか。そして、その結果、地球になにが起きているのか。私たち一人一人が考えて行動する時代がきています。

「西洋を否定し、東洋を肯定しよう」言っているのではありません。AかBかどちらか一方を選ぶ「二者択一」だけでなく、「共生」という選択肢もあるということです。東洋思想の陰陽論では、相対する二つの存在は、どちらか一方が存在するからこそ、もう一方も存在します。そして、両者はお互いを補い合う関係にあります。西洋思想は高い「技術力」が特徴です。一方、東洋思想は高い「精神性」が特徴です。この二つの思想の良い部分を重ね合わせると、新しい世界を生み出すことができます。東洋と西洋の知が融合する、新時代の空間提案。それが、「風水空間デザイン」です。

マインドフルネスに心の内側へ真理を求め「思想の軸」をもつことが、理想の空間づくりには欠かせません。東洋的な「あり方」を風水思想から学ぶことで、現代建築の設計プランが大きく変化する可能性を秘めています。

### 3.「日本風水」と「琉球風水」の違いは？

歴史をさかのぼると、日本と沖縄では、風水の「起源」は同じですが、風水が伝わった「時代」や「経路」が違います。風水の日本伝来の記録は7世紀。602年に百済(くだら)の僧、観勒(かんろく)によりもたらされました。そして、遣唐使や遣隋使により、中国の先進的な技術や仏教の経典などと一緒に風水の知識も持ち帰られました。藤原京や平安京が風水で作られました。しかし、9世紀に遣唐使が廃止され中国との国交はなくなり、日本式風水は独自に発展します。江戸時代は鎖国でしたが、長崎から取り寄せた中国の風水書が日本語に翻訳され「家相」として普及しました。(渡邊 2009)一方、琉球に風水の伝来は14世紀。17世紀からは王府の役人が、風水の本場中国福建省へ風水を学ぶために2~3年留学しています。以降18世紀まで約200年、王府は継続的に中国へ留学生を送り、最新の風水術を持ち帰り、国策に取り入れました。王府の歴史編纂書にも、政治的な風水判断を行った記録が、数多く残っています。(都筑 1990)

それでは、現代の「日本風水」と「琉球風水」は、具体的にどんな違いがあるのでしょうか。ここで話をする「日本風水」とは、TVや雑誌の特集などによる一般的なイメージの風水です。それぞれの特徴ををシンプルに言うと、日本風水は「方位鑑定による吉凶診断と開運効果」、琉球風水は「氣の流れの鑑定をメインにした自然と調和する心地よい空間づくり」です。

風水には大きく2つの流派があります。一つは「方位派」です。方位磁石を使い、目に見えない方位を中心に鑑定を行うのが特徴です。もう一つは、「形勢派」(けいせいはい)です。「形勢派」は「形の勢い」と書きますので、目に見える形から生じる氣の流れの勢いから風水判断するのが特徴です。日本の風水は、基本的に「方位鑑定」だけで判断します。一方、琉球風水は「形勢法」をメインに氣の流れを重視し、氣の流れを崩さない範囲で「方位鑑定」を取り入れます。『氣の流れ』を「見ているか」「見ていないか」がわかりやすい違いです。氣の流れを見ないで方位だけで住宅の間取りを判断すると、心地よい生活動線を犠牲にすることがあります。この部分が、建築と風水がぶつかってしまう原因にもなっていますので、方位鑑定は「使い方」に注意が必要です。

#### 4.「四神相応」と「陰陽論」がわかると設計はもっと楽しくなる

風水空間デザインで行う「琉球風水鑑定」とは、言いかえると「環境分析」を行うことです。特に、「四神相応」と「陰陽論」の2つの考え方を身につけると、設計プランが根本的に生まれ変わります。風水には自然界の原理原則を言語化した考え方の軸があります。軸があると、感覚だけに頼らない論理的で説得力のある設計プランのアイデアが浮かびます。

風水空間デザインのメイン鑑定法は、形勢法の四神相応の考え方を軸にした「氣の流れの鑑定」です。「形勢法」は、風水の専門書には「巒頭法(らんとうほう)」と書かれていることが多いです。巒の字は「山の連なり」という意味。山の尾根の形は龍に例えられ、その龍の勢いを見ることから「龍法」という別名も持っています。風も水も山や建物など周辺環境の「形」に影響を受けて流れ方が決まります。氣の流れとは周辺環境の形、つまり、構造や仕組みによって作られています。よって、風水師は空間をつらぬく「氣の流れ」を、その周辺にある「形」をみて判断します。これが「氣の流れの鑑定」です。氣の流れ自体は目には見えませんが、氣の流れを作り出す周辺環境の形を見ることはできます。あらゆる環境条件を自然界の法則から読み解き、氣の流れを判断することができるのです。

「四神相応」に「陰陽論」を掛け合わせると、さらに心地よい空間ができます。陰と陽はそれぞれ相対する存在でありながら、お互いを助け合う存在で、どちらか一方が存在しなければ、もう一方も存在しないという関係にあります。昼と夜、光と影、男性と女性…。宇宙の万物が陰陽のエネルギーをもち、バランスを取りながらこの世界が存在しています。よって、宇宙の一部である私たち人間も、そして住宅も、陰陽のバランスが取れると心地良い。男性と女声から命が生まれるように、新しい何かが生まれるのです。

他にもさまざまな風水鑑定法がありますが、「何を決めたいのか」その目的により最適な鑑定法が違います。鑑定法には、得意不得意があります。風水空間デザインでは、4種類の鑑定法を使い分け、全体でひとつの世界観として総合的に診断します。そして、風水鑑定結果から設計デザインの方向性を出します。今、なんとなく感じている「違和感」の原因が風水鑑定でわかります。違和感の原因がわかるので、これまでとは出発点が変わり、不具合をあらかじめ改善した状態で設計プランができあがります。

## 5. 脳が喜ぶ！科学的に幸福度が上がる心地よい空間設計を一気通貫

東洋思想から生まれた風水空間デザインの手法ですが、実は、多くの面で西洋の視点でも科学的に解釈できます。科学で解説できると、説得力が出て再現性が高まります。風水思想とは自然界の原理原則に基づいているので、さまざまな領域に適用できます。風水空間デザインならではの特徴は、土地、間取り、インテリア、暮らしを一気通貫でデザインできること。しかし、それぞれの領域により科学の分野は異なります。

土地を見る時の氣の流れの鑑定は「環境学」です。風水は景観分析の手法です。光、風、水の流れを見る時は、周辺環境の自然との調和をととても大切にしています。

間取り設計や家具レイアウト設計に使う氣の流れの法則は「人間工学」から説明できます。人間ができる限り自然な動きで、効率的に生活ができるようにデザインするのが、人間工学であり、氣の流れの鑑定です。事故が起きやすい危険な環境を避けて、安心安全な場をつくるための方法論です。

インテリアでは陰陽五行の考え方を使いますが、科学の領域では「心理学」です。住む人の人生に寄り添って、色彩心理学をベースに陰陽五行を組み合わせ、カラーバランスを整えます。すると、その人が得たい感情になれる環境を作ることができます。陰陽五行の考え方の軸があると、無数にある壁紙やカーテンの色や柄を選ぶ時も、一発で的中させるような技も使えるようになります。

とりわけ、風水と最も関連の深い科学は、脳科学です。毎日の暮らしの中で環境から刷り込まれる情報が、私たちの無意識を作り上げるからです。氣の流れの良い、心地よい空間では、脳がプラスの情報を受け取り、良い感情が得られます。私たちが幸せと感じるその正体は、脳内から分泌される幸福ホルモンです。つまり、脳からセロトニンが分泌される空間を意図的につくることができれば、それは、科学的に幸福度が上がる空間を作ることができるのです。風水の効果は今や脳科学でも実証されつつあります。大自然の法則を読み解いた風水思想を建築・インテリア設計に生かせば、無意識レベルで脳が喜ぶ、科学的に幸せになる空間をデザインできます。

## 6. 幸せなる家を作りたいなら住む人が好きになる家設計すること

人生が好転する秘訣。それは、自分の家を”好き”になること。幸せになる家を作るためには、住む人が心から好きになる家設計することです。家を好きになると、そのポジティブな感情が、場に蓄積されていきます。場のエネルギーが高くなると、住む人の潜在能力が最大限に引き上げられ、継続的に高いパフォーマンスを発揮できるようになります。理想の未来を描き、想いを込めて空間を作ると、願いが蓄積され、夢が実現します。

イギリスの元ケンブリッジ大学フェロー、生物学者、超心理学者のルパート・シェルドレイクが唱えた仮説に「形態形成場仮説」があります。記憶が「形の場」と呼ばれるところに蓄積され、過去の記憶と共鳴することで、時間軸を超えて同じことが繰り返されると考えます。事故多発の交差点とか、お店が出店してはすぐに新しいお店に変わる場所というのが、ありますよね。

「記憶」は「感情」と強く結びついています。家を好きになることで、良い感情が空間に蓄積されると、良い記憶によって住環境という器が満たされていきます。このような空間は、住む人の人生をサポートする、最強のエネルギー場になります。

では、住む人が家を好きになるためには、どうしたらいいのでしょうか？

答えは、シンプルです。空間に明確な想いを込め、調和の取れた心地よい空間を作ること。理想の自分を具体的にイメージして、その空間で「得たい感情」が得られる空間です。毎日を過ごす家が、心地よく、笑顔で、ワクワクした感情で過ごせる空間であれば、セルフイメージも上がり、家を好きになります。家を好きになると、家からも応援されるようになり、幸運を引き寄せます。空間づくりは、想いを込める初期設定が、とても重要なのです。家は人生を映し出す鏡。家はあなた自身です。家を好きになることができれば、自分を好きになることができます。幸せとは「自分を好きになること」ではないでしょうか。

風水空間デザインの目的は、風水の教科書に書かれていることを、きっちり守ることではありません。なぜなら、実際の設計現場で、完璧な風水の家など建たないからです。大切なのは、住む人の夢を叶える住環境を作り上げること。風水のテクニックだけに頼らず、住まう人の人生に寄り添うという基本的な姿勢が、そこに住む人の幸せな感情を生み出します。

## 7.「風水空間デザイン」とは「未来の空間デザイン」

一般的な風水鑑定と風水空間デザインの決定的な違いがあります。それは、間取りを見る時、「現状をみるか」「未来に実現可能な風水の良い具体的な設計プランを作成した上でみるか」です。あなたがイメージする風水鑑定は、風水師に図面を見せ「北東のトイレは凶」「西に丸くて黄色いものを置くと金運アップ」などの助言を得ることではないですか。風水空間デザインは、風水を取り入れた具体的なプランを作成した上で風水を判断します。土地も、間取りも、インテリアも、誰にでも共通する風水の吉凶はあります。しかし、最も大事なのは、「その土地の性質を生かして、施主様の要望に合った建築ができるかどうか」です。最大限に風水の良いプランの作成にトライした上で、プロジェクトを前に進めるかどうかの決断のサポートをお手伝いします。

例えば、現状の間取りが悪かった場合、その間取りを見て風水を診断するだけでなく、改善プランを作成した上で風水の吉凶をお伝えします。新築の場合、家が建っていませんから、いくらでも風水をよくすることができます。新築分譲マンションの例がわかりやすいかもしれません。売出し直後の早い段階で購入すると、水周り配置など変えられない部分もありますが、間取り変更を自由にできます。元々の間取りの風水が悪い場合、現状の風水しか見なければ「悪い間取り」として購入を見送る決断になります。

以前、新築マンションの購入判断について相談がありました。間取り図を見た時は「この部屋は買わないほうがいい」と思いました。ただ、状況をお聞きすると、まだ設計変更ができる段階。仮契約したばかりで支払いも発生していないとのこと。「キャンセル料が発生しないうちに早めに相談のアポを取って下さい」とお伝えしました。現状の間取りは悪いですが、ヒアリングした上で改善プランを立ててからでないと判断ができないからです。間取り図を見ているだけでは、改善プランが全く浮かびませんでした。しかし、ヒアリングの後、施主様がどんな暮らしを求めて家を購入したいのか理解できると、プランが浮かびました。ご家族の思いを形にしていくと、自分でもびっくりするくらい良い間取りになりました。「このような風水の良い間取りに改善可能な物件です」と改善プランをお見せすると「こんな素敵な暮らしが待っているなら安心して購入できます」と言ってご契約されました。

もし入居後に相談されたなら、アドバイスは全く違ったものになります。なぜなら、リフォームに数百万円かかる設計変更だからです。入居前なら無料ですが、入居後であれば買ったばかりの新居を数百万円かけてリフォームするのは現実的ではありません。家造りには何かしらの制約が必ずあります。与えられた状況の中、現実レベルで最高と考えられる未来の空間をデザインすれば、「次にどちらへ向かうか」方向性を決めることができます。

## 8.「風水空間デザイン」は建築・インテリアの設計現場で役に立つのか？

これまで琉球風水師として、間取り設計、インテリアデザイン、暮らしの不具合の改善など、琉球風水の考え方を応用実践してきました。その結果、現場で使える方法論を本書に集めました。風水思想を実践的なレベルで体现することを目指したのが風水空間デザインです。四神相応も陰陽論も、とてもシンプルな考え方です。しかし、本質的かつ抽象的なので、いかようにも解釈でき、答えも一つではありません。それだけに、原理原則をふまえつつ、現場での経験値や感性と組み合わせることができると、最適化した答えを導き出すことができます。

建築・インテリアの設計のプロの皆様が、風水空間デザインを実務に取り入れる魅力の一つは、「風水鑑定図面」という成果物の制作ができることです。設計プランが見える化・言語化され、説得力のある提案ができます。

風水空間デザインの一番のメリットは、心地良い氣の流れを描く設計プランを再現性高く作成できることです。しかし、氣の流れは目に見えないため「どれだけ心地よいのか」図面を見ただけではわかりません。従来の建築設計の考え方には存在しないものですし、心地良さは、感覚でしかわからないものでした。

風水鑑定図面は「伝えたいことが見える化でき、論理的に説明できるツール」です。設計プランを自然界の原理原則によって解説したものです。風水思想をベースに図面を描いたのであれば、図面を制作するプロセスを視覚化・言語化するだけのことです。お客様にとっては、オリジナルにカスタマイズされた満足感があります。

風水も流派によって考え方が違います。建築士が読んだ本と、施主様が読んだ本では、それぞれ別のことが書いてあるかもしれません。その時に大切なことは、どちらが正しいとか間違っているとかの議論ではなく、「その提案の根底にある考え方まで自信をもって言葉にできるかどうか」です。

風水空間デザインの技術を実務で使っていくことで、なんとなく風水を知っているだけの状態から、風水思想が自分のものになっていきます。風水思想とは、「マニュアル的なテクニック」ではなく「本質的な考え方」です。風水思想が自分の哲学にまで昇華すると、いくらでも新しい手法を生み出すことができます。建築・インテリアの関係者の方々にも、安心してお使いいただける風水です。